

オフィス内の情報伝達活動に配慮した 環境マネジメントシステムの構築に関する研究

：企業の OA 紙使用量削減活動を事例として

安希慶

キーワード：環境マネジメントシステム、ISO14001、環境側面、実測調査、情報伝達媒体、OA 紙使用量削減活動

1. はじめに

本研究は、事務部門での「OA 紙使用」に対する環境マネジメントシステム(EMS)の構築・運用についてのものである。「OA 紙」は事務を遂行するための情報伝達媒体であるため、他のものと比較して、より深く経営に結びついている。また、経営面での利益と離れていけば、長期間にわたる EMS 運用の維持が困難になると考える。そのため、「OA 紙使用」に対して EMS を運用するためには、情報伝達媒体としての「OA 紙」の特性を考慮しなければならない。そのため、本研究では、「OA 紙使用」についての「実測調査」を通じて現状を詳細に把握した上で、経営とのバランスを取ることのできる EMS の構築を提案することを目的とした。「実測調査」は、ある事例企業を対象として、「OA 紙使用」の現状を詳細に把握できるように設定したものである。

2. 一般企業が「OA 紙使用量削減活動」を行う際の問題点

事務部門における EMS 構築・運用活動の一環とした「OA 紙使用量削減活動」について、日本の一般企業 11 社を対象としたアンケート調査を行った。その結果、企業の「OA 紙使用量削減活動」における一般的な EMS では、計画段階において基準年を設定した上で、OA 紙の購入量や在庫量を測定基準とした根拠の薄い「環境目的・目標」が設定されていることが分かった。また、一般企業で「OA 紙使用量削減活動」が実施される際には、モニタリング及び「実測調査」の実施の点で困難とされていることが分かった。

3. 「実測調査」を盛り込んだ EMS モデル及び「実測調査」の概念

従来は、多くの企業において、詳細な把握調査が行われないまま「OA 紙使用量削減活動」に対する EMS が運用されて来た。しかし、これからは、活動における『「計画」「実施及び運用」「点検及び評価」「見直し及び改善」の継続ができること』と言う EMS の本来の概念に合わせた「OA 紙使用量削減活動」を進めることが求められる。そのための方策として、「点検及び評価」の段階における、現状が把握できるような実測調査の実施を提案する。

つまり、この「実測調査」を通じて、企業の「OA 紙使用」の現状が把握できた上で、目的・目標を企業の実情に合わせた実現可能なものへ見直すこと、及び環境マネジメントプログラムの設定を実践可能なものへ見直すことを提案する。

4. 「OA 紙使用状況把握調査」及び「OA 紙使用量削減条件把握調査」の実施及び結果

「実測調査」は、「OA 紙使用状況把握調査」(調査 I)と「OA 紙使用量削減条件把握調査」(調査 II)から構成した。調査を実施するために、先ず第 1 段階として、事例企業で日常業務遂行の中、作成されている「文書区分」を 21 種類の文書を定義し設定した。この「文書区分」ごとの使用形態別の OA 紙使用量を把握することが調査 I である。調査 I の結果に基づいて調査 II では、OA 紙の使用量を削減するための活動の範囲や条件を把握した。その結果より「片面文書」の OA 紙使用量を削減するためには、個人判断に任せず、社内規定による「片面利用」作成文書の基準を定め、その以外の文書に対しての「両面利用」と「裏面利用」を推進することが必要であることが判明した。また、機密文書が廃棄後、使用済み用紙として「裏面利用」されないように管理することが、経営に負担をかけず「裏面利用」を推進するために必要である。以上に述べた方法により、「OA 紙使用」の状況が把握でき、企業の実情に合わせた活動の推進が可能になると考えられる。